

教員名	小林 徹	所属学科	経済
<p><b>【ゼミでは何を学ぶのか】</b></p> <p>計量経済学的手法によるデータ分析の方法を学びます。例えば、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・長時間残業をしている人ほど評価され昇進しているのか？</li> <li>・プロ野球選手は、同じ成績でも出身地チームに所属したほうが高い給料になるのか？</li> <li>・どのような具材・ソースのメニューが「キングオブパスタ」で賞を取りやすいのか？</li> </ul> <p>などについて、データを収集し分析していきました。</p>			
<p><b>【どのように学ぶのか】</b></p> <p>2年後期は、多くの論文を輪読することで、ミクロ計量経済学や労働研究がどのようなものか理解していきます。</p> <p>3年前期は、研究テーマの立て方やテーマに関連した先行研究の調べ方、その整理の仕方について学びます。また、実際に研究テーマをたてて、具体的な研究計画書を作成します。</p> <p>3年後期は、計画に沿って研究を実施します。その過程でデータ分析を身につけます。分析で必要になる知識はゼミ時間や研究室での演習を通じて学びます。</p> <p>4年次は、各自で独自の研究テーマを計画し、研究を実施して卒業論文を作成します。ここでは、修正・推敲を前提として完成度を追求します。「研究を実施する価値や分析の妥当性や明らかになったことの重要性が説得的に主張する」ことができるまで粘り強く進めていきます。</p>			
<p><b>【学んだことはどのように生かせるのか】</b></p> <p>本ゼミの研究活動は言い換えれば「根拠（データ）を示しながら、自分の主張を説得的に行う」ロジックの訓練をしているので、本ゼミでの学びはまさに企画や提案の場など他者からの賛同を得ることが求められる仕事で役に立つものと考えています。ゼミ活動を自主的に進めることで企画力や提案力を高め、自分のやりたい仕事ができる社会人になってくれればと思います。</p>			
<p><b>【おすすめの入門書・基本テキスト】</b></p> <p>スティーブソン・D・レヴィット、スティーブソン・J・ダブナー『ヤバい経済学』東洋経済</p>			
<p><b>【まだ見ぬ君へのメッセージ】</b></p> <p>大学では高校までは学校になじまないような知識でも、好きで既に自分が詳しい知識を学びに活かすことが出来る場面が多くなります。例えば、競馬好きな人は過去のデータを用いて競馬会のジンクスに関する研究が出来るかもしれません。また、野球観戦が好きだが観にいくと応援しているチームがいつも負けるといふ人は、同じような経験をしている人からデータを集め、その真の原因を探る研究をしても面白いでしょう。大学ではこのような学びも評価されます。高校までのような勉強に疲れて大学では遊びたいという人も、遊びと区別がつかない様な勉強を自分で考えればよいわけです。つまりは大学での学びを面白くするには自主性が求められるのだと思います。</p>			